第６学年　社会科の実践

１　単元名　「全国統一への動き」

２　単元目標

・武士による政治の仕組みや農業技術の進歩などを調べ、武士や農民、町人の暮らしの基盤ができ始めたことをとらえる。
・信長、秀吉、家康、３人の武将の業績を軸に、全国統一までの動きをとらえることができる。
・自分たちが住んでいる町（小田原）を築いてきた北条氏の業績を知り、その思いに気づく。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・全国統一に関わる人物に興味を持ち、それぞれの業績について調べようとする。	・４人の武将のそれぞれの業績の違いをつかむことができる。 ・それぞれの武将の思いについて考えることができる。 ・これらをポスターや発表で表現できる。	・資料や、想像図などを読み取ることができる。	・３人の武将の業績を軸に、全国統一の過程がわかる。

３　ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの「切実な問題」を見とった授業づくり
ブロックテーマ「仲間に共感しつつ、自分の思いも大切にする姿」
「新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿」

（１）　子どもの実態

本学級の子どもたちは基本的にまじめで、指示されたことに対して素直に取り組む。目的がはっきりしているものに関しては、スムーズに取り組めるが、自ら考えて取り組む力に欠ける。子どもたちから「したい」「やってみたい」といった意思表示をすることもほとんどない。また発言に対しても、人の考えを「聞きたい」、自分の考えを「伝えたい」と思っている子も少ない。そのため集団で学習する良さを伝え、ペア学習、グループ学習を４月から多く取り入れてきた。個からグループ、グループから全体へと段階を追って話し合う能力を身につけることができるよう指導している。４月に比べると、聞く姿勢、伝えようとする姿勢に変化が見られるようになってきた。

６年生になり歴史の学習が始まった。子どもたちにとって、歴史というのは全て過去の事柄であり、現在の生活とは直接的に関係していないと考えている子がほとんどである。４月の初めに「歴史をなぜ学ぶのか」というテーマで話し合った。その話し合いからも学ぶ理由がわからないという回答が多く、それぞれ意見を出し合ったが、歴史を学ぶ意味の答えには届いていない。しかし、歴史の学習は好きという子が多い。その理由としては、「知らないことを知れる」「資料を見るのが楽しい」などがあげられる。そのため、これからの学習を通して学ぶ意味を感じていってほしい。

地理的には、小田原城の隣で毎日を過ごしていながら、小田原の歴史に興味を持っている子は少ない。もちろん知識も多くないと考える。小学校での歴史は縄文時代からの扱いになるが、そこから源平合戦の戦地である石橋山を扱うまで小田原地方のことが出てこない。そこで自分たちが住んでいる町が昔はどんな様子だったのか、当時の資料を使って時代ごとに紹介するようにしてきた。身近な地域の紹介により、興味を持って資料を見ていた。しかし、あまりに違う町の様子や、当時の様子を見ても、しっくりこない顔をしている子が多かった。

また、これまでの歴史学習の中で、「人」を中心に扱ってきた。なぜなら、どの時代にも人と人との関わりがあり、そのやりとりから必ず新しい時代が生まれてきたからである。当時の人たちの考えや心境、思いに視点を向けることによって、現代と比べて考えたり、時代の流れを予想したりすることができるようになってきた。また「自分ごと」として歴史をとらえる子も出てきた。そして時代が変化していく部分は丁寧に扱い、断片的でなく全て繋がって歴史が成り立ってきているということも意識できるよう指導してきた。

「関わり合い」「ひびき合い」という点では現在も指導しているところである。前述のとおり、集団で学習する良さを感じている子が少ないため、感じ取ることができるよう、仲間と関わる機会を多くとっている。グループでの話し合いでは、みんなの考えを持ち寄り、その中から選ぶというわけではなく、考えを集めてより良い考えにできるよう指導している。また、そうしようとする子が増えてきたのも事実である。今後は、子どもたち自身が「したい」「やってみたい」と思えるような課題を、実態に応じて設定していく必要がある。さらに、子どもたちから、そういった声があがるようにしていきたい。

（２）　単元について

本単元は、大名が領地を広げようと戦い、全国統一を目指す戦国時代を扱う。戦国時代は、室町時代に起こった応仁の乱から始まり、その後秀吉が小田原北条氏を倒して全国を統一するまでの約１００年間ととらえ、学習を進める。またこの時代は下剋上の時代とも言われ、身分の低い者でも、実力があれば身分が上の者を倒し、支配することができた。全国には名だたる大名が領地を支配し、戦を繰り広げていた。そんな時代に自分が住む小田原が関わっていると知ると、より興味を持ちながら学習できる単元であろう。

学習指導要領には信長、秀吉、家康の３人の業績を軸に全国統一への動きをとらえることになっている。信長は新しいものを取り入れ、政治に活かそうとした。長篠の戦いでは鉄砲を導入し、武田軍を破った。また、キリスト教を保護し、スペインやポルトガルとの貿易が盛んになった。そして楽市楽座を行い、商業の発展に努めた。

秀吉は百姓から成り上がっていった武将であり、信長の家臣として仕えてきた。信長の死後、その意志を引き継いで全国統一を目指す。その後、最後の砦である小田原の北条氏を攻め倒し、全国統一を果たす。その過程では農民支配を目的とした太閤検地を行い、さらに刀狩りによって一揆などの抵抗を防止した。これにより農民は農業に専念す

るようにし、兵農分離政策を進めていった。
家康は当初対立していた信長や秀吉に仕え、２人の全国統一までの道のりを家臣として支えてきた。しかし、秀吉の死後、関が原の戦いにて豊臣家を滅ぼし、全国を統一した。信長、秀吉、そして北条氏が行ってきたことを政治に多く取り入れ、２６０年にわたる江戸幕府を切り開いた。
本単元では以上の３人の業績を知るだけでなく、秀吉が全国統一を果たす直前の小田原合戦をもとに、それに関わる北条氏の業績にも触れ、全国統一までの動きをとらえられるようにする。北条氏は一代目の早雲から五代目の氏直まで特定の人物を決めずに、ひとまとまりとして学習していく。北条氏が代々築いてきたものに目を向けてほしいからである。
この北条氏を扱うことで、小田原の暮らしの基盤が築かれてきたことや、その当時の人々の思いや願いなどを感じ取ることができるだろう。そして小田原が全国統一に大きく関わっていることを知り、町への愛着を持つようになってほしい。
小田原の暮らしの基盤は北条氏が築いてきたといっていい。北条氏は小田原城の城主であった大森氏を倒すと、その後１００年にわたって小田原を支配する。１００年間という長い間、小田原を治めることができた理由としてやはり北条氏の政治に目を向ける必要がある。その政治の仕方は、当時にはない民主的なやり方で、むしろ現代社会に近いものがある。北条氏は民衆のための政治を実践したのである。その実践例としての一つが目安箱である。民衆の直の声を取り入れ、政治に生かそうと考えた。そしてどんなときも独断で決めず、話し合って決めたとする小田原評定がある。また４公６民といったように税を減らして、民衆の負担を軽減することも行った。民衆からすると当時にはありがたい政治であり、大名と民衆との関係がうまくいっていたことを想像させる。その他にも、農民が自由に商売できる六斎市を開いたり、職人を各地から呼び寄せ、町を活気づけたりした。例えば鋳物師や大工、外郎、漁業などがあり、その時代に始まって、今も残っている。また鍛冶屋職人を呼び寄せたことで、鍬やかまは農民の手に入りやすくなり、その後の農業の発展を支えた。北条氏は、城を民衆と町全体を囲むようなつくりにしたことから、小田原の町を民衆と共につくり、築き上げていこうとする思いがあったのではないだろうか。また、このように小田原を約１００年にわたって築き上げてきた北条氏の小田原への思いには、はかり知れないものがあるはずである。
これらを踏まえ、本単元では、北条氏の政策、小田原の町の基盤ができる経緯をとらえると同時に、子どもたちが、当時の人々の思いにせまれるようにしたい。そのため、その思いが一番現れるのは、全国統一を目指す秀吉勢に小田原城が囲まれたときに行われたであろう小田原城での話し合いの場面だと考えた。「戦おう」「勝ち目がなさそうだ」「戦うしかない」「戦うとなると民衆が犠牲になる」「今まで築き上げてきたものを壊したくない」などの葛藤があったことが想像できる。子どもたちもそれまでの学習を通して、様々な葛藤があったことに気づくだろう。ただ最終的には、北条氏側の視点ではなく、全国統一に関わるそれぞれの人物の良さを理解し、その後の江戸時代につなげていけるとよい。実態でも述べたように、子どもたちは小田原城が隣にあるにも関わらず、小田原の歴史についての知識が少なく、同時に小田原への愛着の薄さも感じる。小田原に生まれ、育っていくのであれば、自分の住んでいる町の成り立ち、先人の思いなどを少しでも感じ、愛着を持ちながら生活していってほしい。
歴史を学び、過去から受け継がれてきたことを受け止め、現在の生活に生かしていくことは、これからの社会で輝いて生きていかなくてはならない子どもたちにとって、必要不可欠なものではないだろうか。またそこに歴史を学ぶ理由があると考える。

（３）指導について
① 地域教材による導入について
実態でも述べたが、自分たちから進んでなにかをしようということはないが、目的がはっきりしているとそれに向かって取り組むことができる。子どもたちが毎年のように触れ、参加したこともあるだろう北条五代祭りの写真を提示し、導入としたい。それにより、小田原と戦国時代の結びつきに興味を持つと考える。またその北条氏が、戦に明け暮れいつ殺されてもおかしくない戦国時代に約１００年もの間小田原を支配していたという事実を知ることで、自分たちが住んでいる小田原で起きたことやそれを支配していた北条氏のこと、また当時の町や暮らしの様子についてもっと知りたいという知的好奇心が生まれることを期待したい。

② 課題作りについて
追究心を持ち、こだわりを持って調べ、学習を進めることができるように、子どもたちの思いを大切に課題を作っていく。北条氏の事実を知ることによって、いくつもの感想と疑問が生まれるだろう。それらの意見を座席表にして全員で共有し、みんながどんなことに興味を持っているのか、疑問を持っているのかがわかるようにしたうえで、クラス全員で課題を作る。これはその後の秀吉や信長、家康を扱うときも同じである。子どもたちの思考にそった課題作りを心がけて学習を進めていく。

③ 資料について
子どもたちが普段使っている教科書や資料集には、秀吉・信長・家康の事柄は記載されているが。北条氏に関する事柄がほとんど載っていない。そこで、子どもたちが学習の中で必要になるであろう資料は、教師が用意する。また、それらの資料のほとんどは子どもが読み込むには難しいため、内容を要約したものを用意しておく。これにより、自分の課題にあった資料を見つけやすくなり、調べる意欲も高まるだろうと考える。必要に応じて、近くの歴史見聞館に見学に行ったり、話を聞きに行ったりするようにする。また、秀吉・信長・家康についても、同様の準備をしておく。

④ 学習過程について
これまでの学習では、当時の人々の気持ちの部分に焦点を当て、学習を進めてきた。当時の人々の願いや思いを感じることで、現代を生きる自分たちと比較し、自分の生活に返ることができると考えたからである。毎回の授業後の感想では、当時の人々の気持ちを考えた感想が多くなってきている。そのような視点が、本単元で生きるだろう。
本単元は、北条氏が小田原を１００年間支配していたという事実から、「なぜだろう」「もっと知りたいな」という知的好奇心が膨らむと思われる。戦国時代の過酷な状況下ということを知ると、子どもたちはこの１００年がとても長い１００年だということを感じるだろう。そこから「どうしてそんな長く支配できたのか」という疑問が生まれる

ことを期待したい。そして、その疑問をクラスの課題とし、学習を進めていく。長く支配できた理由を自分なりに考え予想し、その根拠を探すために調べる。そうすることで、調べる必要性が生まれるだろう。根拠としては、人柄、政策、環境、戦術などがあげられるだろう。調べたことを話し合う過程で、北条氏の人柄や常に話し合いでたくさんの人の意見を聞いていたという民主的要素や、北条氏が小田原の町の基盤を作っていたことなど民衆との信頼関係があったことに気づくことを期待したい。

その後小田原城が敵軍に包囲されているときの図を見せる。そしてその状態が３ヶ月間も続いたことを知ると、その間北条氏は戦いもせず何をしていたのか疑問に思うだろう。子どもたちは、北条氏が、話し合いによって様々なことを決めていたことから、その３か月の間も、「話し合っていたのではないか」という予想するのではないだろうか。そして、その時どんな話し合いがされていたのかを、今まで調べてきたことを根拠に話し合うことによって、「今まで築いてきたものを壊したくない」「民衆を傷つけたくない」など北条氏の「小田原への思い」にせまることを期待したい。

そんな小田原を攻めた秀吉に対し、子どもたちは好感を持たないかもしれない。しかし、全国統一を目指す秀吉には秀吉の良さがある。そして、秀吉を学習することによって、秀吉以前の信長と以降の家康にも目が向くだろう。この２人の人物についてもそれぞれの良さを見つけ、人物に対する理解と愛着を深めてほしい。この３人がいたからこそ、江戸時代の基礎を築くことができたのである。また、小田原は、その基礎に関わっているとても貴重な町だということに気づくと同時に、小田原の暮らしの基盤を築いた先人の思いにも気づいてほしい。

⑤　ひびき合いについて

本時では、小田原城が包囲されている図を確認した後の「包囲されているとき北条氏はどのようなことを話し合っていたのだろう」という課題を話し合う。明らかに勝ち目のない状況に葛藤する北条氏の気持ちを、子どもたちは、これまで北条氏について学習してきたことを根拠として想像するだろう。みんなで出し合った意見をもとに、他者の考えを受け入れながら、自分の意見を大切にしつつ、再度考えることができるようにしたい。そして自分の考えを深め、新たな考えを生み出す姿をひびき合いとしたい。

４　単元指導計画

	学習活動	主な支援・留意点【評価】
1	○応仁の乱と戦国時代 戦国時代と北条氏について思ったことを発表しよう。 ・100 年間も続いてすごい　・北条氏ってどんな人？ ・いつ滅ぼされたんだろう	・戦国時代への流れと時代背景をおさえる。 ・北条五代祭りの写真を掲示し、興味を持たせる。 ・１００年間続いたことがどれだけすごいことか実感させる。 【関心意欲態度】【思考判断表現】
2～4	○北条氏について どうして北条氏は長く続いたのだろう。 ・戦いが強かった　・家督争いがなかった ・人柄がよかった　・小田原評定　・目安箱 ・税が４公６民　・産業の発展	・子どもが調べやすいよう、北条氏に関わる資料を用意する。資料によっては要約したものを用意する。 ・長く続いた理由を予想し、その予想を裏付けるために調べる。 ・たくさんの要素が重なって１００年続いていたと考えることができるようにする。 【関心意欲態度】【思考判断表現】【技能】【知識理解】
5～7（本時）	○小田原城が囲まれている図を見て 北条氏はどのようなことを話し合っていたのだろう。 ○根拠をもとに想像して話し合おう　（本時７時間目）	・既習事項から根拠を見つけ、話し合っていた内容を考えることができるようにする。 【関心意欲態度】【思考判断表現】【技能】【知識理解】
8	○豊臣秀吉 秀吉ってどんな人なんだろう。 ・全国統一　・太閤検地　・刀狩	・子どもが調べやすいよう、教室に資料となりそうな本を常に置いておく。 ・その人物の業績を知り、良さを感じることができるようにする。 【関心意欲態度】【思考判断表現】【技能】【知識理解】
9	○織田信長 信長ってどんな人なんだろう。 ・楽市楽座　・鉄砲　・キリスト教保護　・本能寺の変	・子どもが調べやすいよう、教室に資料となりそうな本を常に置いておく。 ・その人物の業績を知り、良さを感じることができるようにする。 【関心意欲態度】【思考判断表現】【技能】【知識理解】
10～12	○その後の日本 徳川家について調べよう。 ・関ヶ原の戦い　・江戸に幕府　・参勤交代 ・一代目家康　・鎖国 その後の小田原はどうなったんだろう。 ・東海道　・宿場町　・産業発展	・子どもが調べやすいよう、教室に資料となりそうな本を常に置いておく。 ・その人物の業績を知り、良さを感じることができるようにする。 ・当時と現在を比較する。 【関心意欲態度】【思考判断表現】【技能】【知識理解】

５　本時について

（１）　本時目標

北条氏が敵軍に包囲されたとき、どのような話し合いがなされていたかについて、これまでの学習をもとに考え、話し合うことができる。

（２） 本時展開（当日案）

本時案

６ 本時について

（１） 本時目標

北条氏が敵軍に包囲されたとき、どのような話し合いがなされていたかについて、これまでの学習をもとに考え、話し合うことができる。

（２） 本時展開

			指導上の支援・留意点・評価
	守ろう・やられない戦法をとろう	追い返させよう、引き返させよう	・前時までに自分の考えをまとめておく。
	・守らないと農民とかが、殺されてしまう ・農民のことを考えていた ・北条氏や市民の居場所がとられる	・政治を続けたい ・五代も続いてきたのに、自分のせいで終わらせたくない ・農民を守らなければ ・農民をこれ以上まきこませたくない	・自分の予想に関しての根拠をはっきりさせておく。 ・出た意見を尊重し合えるようにする。
戦おう	・人々 守りたい ・農民のため 信用を守りたい 死者を出したくない ・民のことを考えて戦う	３ヶ月間、みんなでどんな話し合いをしていたのだろう	・みんなの考えから、共通点を見つけたり、自分の考えに重ね合せることができるようにする。 ・話し合いの後、再度自分の考えを持つ。
逃げよう	・豊臣もろう城 ・6万VS22万じゃ絶対負ける ・農民もつれて逃げよう ・農民を大切にしていたから ・自分だけ逃げればよい ↕ ！？ ・自分だけではない 農民も一緒		
	・領地 取られる ・土地		・北条氏が話し合っていた内容に興味を持ち、根拠をもとに、考えようとしている。 【関心・意欲・態度】
	味方を待とう	負けたときどうする	戦わない・降参
	・こっちの軍も多くしよう ・そのためにろう城だ ・北条氏、民衆を守るため ・仲間を信じて ・余裕 ・6万VS22万人でも負けるはずがない	・土地が奪われる	・庶民一人でも殺されたくない ・農民のこと、女・子どものことを考えていた ↓ 死ぬとかわいそう
	・100年以上続けたい ・城をわたせない ・きりがないから戦う ・今まで初代早雲から築いてきた土地をやすやすにとられたくない		・北条氏が話し合っていたことを根拠をもとに考え、発表しようとしている。 【思考・判断・表現】

※今までの学習を生かして、どんな話し合いがなされていたかを予想しています。しかし、資料から探す過程で、この後北条氏がどうなったのか（結果）を知っている子もいます。
本時では、結果までの3ヶ月間にどんな話し合いをしていたかを話し合うことで、自分の考えを確かなものにしたり、友だちの考えを受け入れたりして、新たな気づきが生まれる時間にしたいです。

６ 実践を終えて

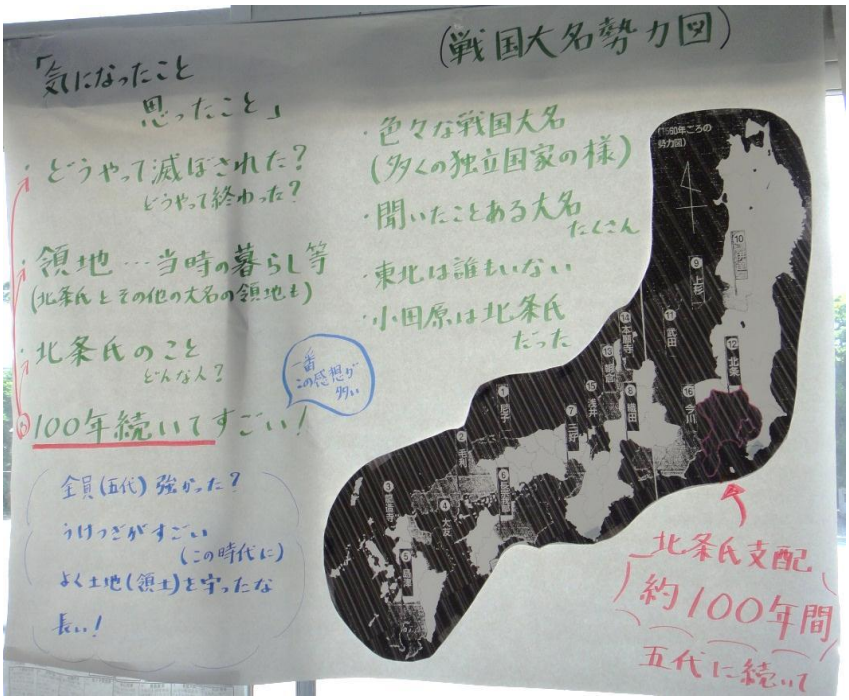
（１） 本時までの流れ

北条五代祭りの写真

・北条五代祭りだ　・小田原の人の祭りだ　・銅像がある　・５代続いたらしい

写真を見て、すぐに小田原の北条五代祭りだと、ほとんどの子が分かった。しかも北条氏の銅像が、駅の目の前にあるということも半分近くの子たちが知っていた。その中の一人は５代続いたことまで知っていた。しかしその北条氏がどんなことをした人物なのかということは知らず、昔小田原にいた人ということぐらいの知識だった。

そこで全国の戦国大名勢力図を見せた。

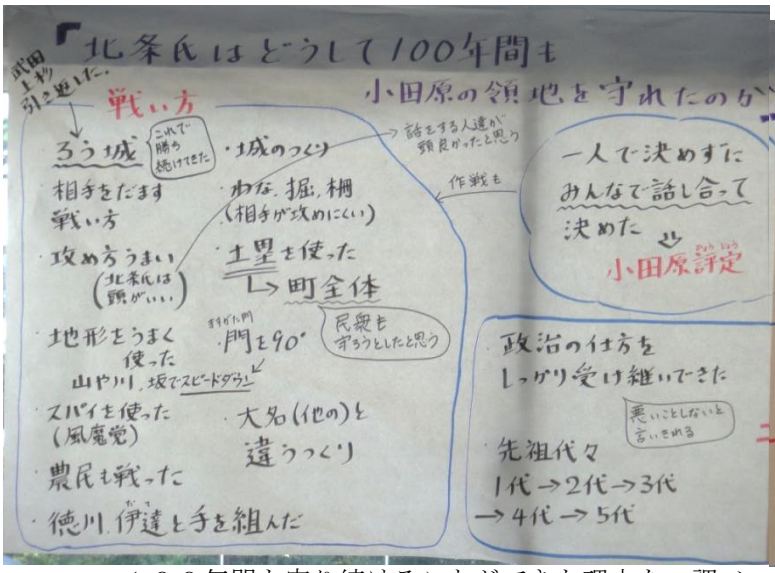


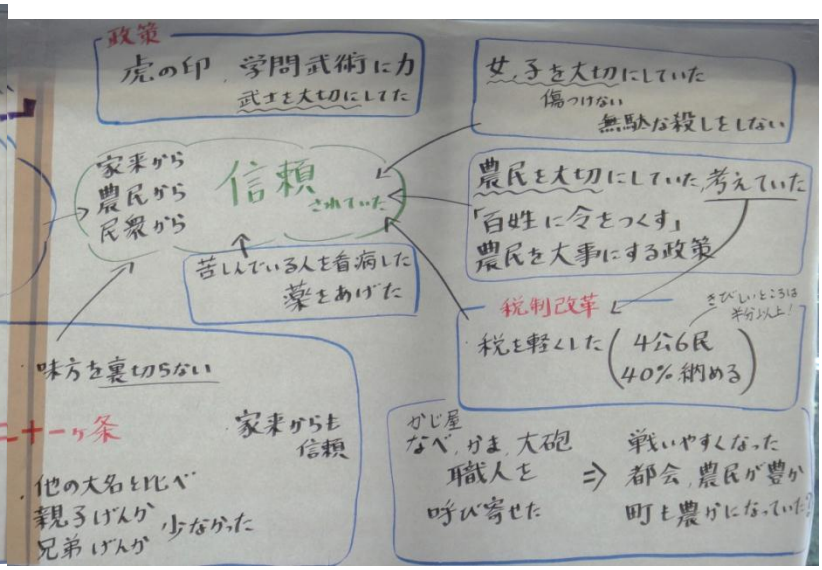
小田原の位置に北条氏という名前を見つけ、小田原は北条氏が支配していたことに気づいた。

勢力図を見ると、聞いたことのある大名の名前だらけだということを確認し、更に戦国時代がどういう時代だったのかも確認した。そのことから
「戦の毎日だった世の中で、５代も続いたことはすごいことなのでは？」
ということに気づいた。

そこで５代というのは、約１００年間のことだと伝えると、ほとんどの子が驚いていた。そこから
「どうして１００年間も小田原の領地を守ることができたのか」
という疑問が生まれ、調べることとなった。

（またそんな北条氏がどうやって滅ぼされたのかということに興味を持つ子もいた）





１００年間も守り続けることができた理由を、調べていくと、「戦い方」・「小田原評定」・「二十一カ条」・「政策」・「税」・「町づくり」・「人々への対応」などが良かったのではないかという意見が出た。これらをもとに話し合いを進めると、

「北条氏は小田原の町の人々に信頼されていたと思う」
「町の人のことを考えて政治をしていた」

ということにまとまった。

だから 100 年間も続いたんだ

いつ滅びてしまったのだろう？

新たな疑問

そこで右の図（小田原城包囲図）を提示した。

・何これ、作戦図？　　・この辺の地図？
・北条氏がなぞの軍隊に囲まれている？
・周りには色々な名前がある
・でもなんだか北条氏が攻められていそう

↓

敵のボスは秀吉！？
一番安全な場所にいる

・これは北条軍 vs 秀吉軍じゃない？

この図が北条軍と秀吉軍の戦いの図だと気付いたところで、軍の人数が記載されている資料を配った。そこに書いてある北条軍６万人に対して秀吉軍２２万人という文字を見て多くの子たちは、北条氏に勝ち目がないことを悟ったようだった。
※北条氏が秀吉に滅ぼされたという事実を子どもたちが知らなかったため、この戦いで戦国時代が終わったという事実は伝えていない。

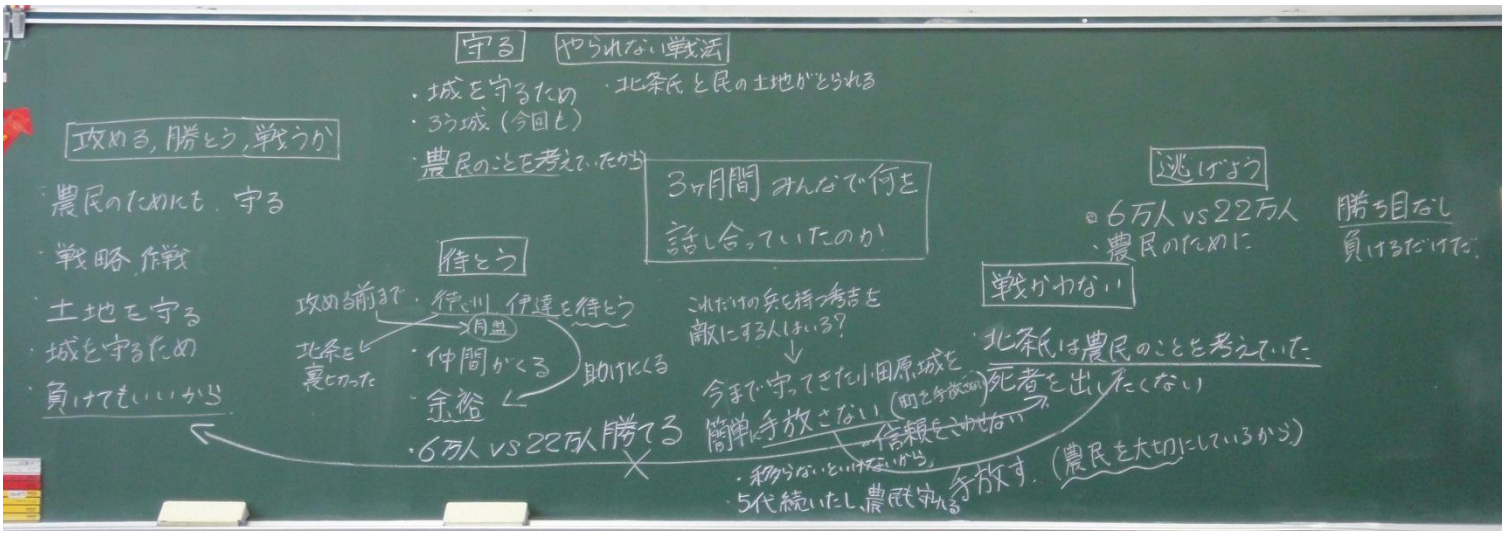
実は３ヶ月間攻撃せず、この状態が続いていたことを知らせた。

・作戦を立てていた　　・仲間を待とうとしていた　　・相手を観察していた　　・新たな兵器を作ろう
・相手を引き返させよう　　・戦う準備をしよう　　・お茶会していた（一名）

小田原評定で話がまとまらなかったのでは？
みんなの意見を聞いていたはずだよ

本時

３ヶ月間、みんなでどんな話し合いをしていたのだろう



結果「やっぱり小田原の町のことや、民衆のことを考えた話し合いをしていたのだろう」という話し合いになった。

その後、秀吉軍に北条氏は降伏したということを伝えた。小田原を築きあげた北条氏を倒した秀吉とは一体どんな人物なのか調べることとなった。そして豊臣秀吉に関わる織田信長、徳川家康という順に扱いながら学習を進めていった。

（２）本時の課題

本時の課題は、指導者の願いとして単元を通して子どもたちに考えてほしい課題であった。また、子どもたちみんなで考えを出し合う必要性があると考えた。なぜなら、それまでの歴史学習でも大切にしてきた、その人物の思いや人間性により深く迫れることができるだろうと考えたからである。しかし本時では、話し合いを焦点化することができなかった。どういう方向性に話し合いを持っていくのか、いつどのタイミングで教師が発問するのか曖昧になってしまった。原因としては、次の二つのことが考えられる。

(ア) 単元を通して一人一人の変容の見取りが甘かったこと。

(イ) 教師の子どもたちの願う姿が明確でなかったこと。

この授業の中で、「この子にこうなってほしい」「こういう支援をしていこう」という教師の準備が不足していた。

切実な課題ということに関しては、子どもたち一人一人違ったように感じる。「自分はこう考えているけど、他の子はどう思っているのだろう」「人の意見を参考にしてみたい」と切実に思っている子もいる中、戦いの結果について気になっていて、今回の課題を切実に思わなかった子もいたと感じる。本時は、座席表をもとにして話し合いを進めたが、自分の意見を述べることより、質疑応答の時間が多くなってしまい、あまりひびき合うことができなかった。

（３）成果と課題

子どもたちがこの資料を見たときこのように思うだろう、この発問をするとこう考えるだろうということを常に予想してきたので、学習を進めるにあたっても、目標に向かってぶれることなく授業を進めることができた。なぜなら、０次案として、単元構想をしっかり立てておいたためである。

以前は自分の考えをしっかり持てる子が少なかったが、今回、子どもたち一人一人がそれまでに学習してきたことをもとに、自分の考えを持つことできた。北条氏の気持ちに迫った考えを持つことができれば、更によかった。また、常に子どもたちが手に取れるように、教室にも、北条氏に関するあらゆる資料を、揃えて置いておいたことがよかった。疑問に感じたことをすぐに調べることができたからである。

この時代は戦国時代が終わる北条氏が滅ぼされたときを単元のスタートにしている。その後、秀吉について、信長についてと、時代をさかのぼるような学習になった。さらにその後、家康が幕府を開く時代に進むという学習の流れになった。そのため、出来事の流れをつかむことが難しい子どももいた。

今回の学習は、地元小田原に住んでいるからこそできる学習である。このように地域教材を扱うことによって、子どもたち自身も自分たちの町の基盤がどのようにして作られたのか、興味深く学習を進めることができた。自分の町に誇りを感じている子もいた。こうして振り返ってみると、地域に即した教材を扱うということは、子どもたちにとっても、大変価値ある学習になっていたと感じる。